

2018年3月期 決算説明会資料

株式会社オプティマスグループ
(証券コード：9268)

2018年6月5日

ご注意事項

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。これらは将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を有しております。将来の業績は経営環境の変化等により変動することにご留意下さい。

I. Executive Summary

II. 2018/3期決算

1. 概要
2. セグメント別実績
3. 「カメムシ問題」
4. 経営上の財務数値目標 及び 配当

III. 2019/3期見通し

1. 概要
2. セグメント別計画

IV. 中期成長戦略

I . EXECUTIVE SUMMARY

1 2018/3期決算：カメムシ問題により高収益セグメントが期ずれ

A 〔連結売上高〕 26,132百万円 前年同期比▲960百万円（▲3.5%）

B 〔連結営業利益〕 1,210百万円 前年同期比▲366百万円（▲23.2%）

C 〔セグメント別業績〕 サービスセグメント黒転も他セグメントは「カメムシ問題」により減収減益

2 2019/3期見通し：増収増益 売上（11.6%増）、営業利益（31.2%増）

3 ROE：10% を目標に設定。 2018/3期は10.3%。2019/3期も達成を目指す。

4 配当性向：当面は30%程度を目安。2019/3期は、中間、期末の2回配当を実施予定。

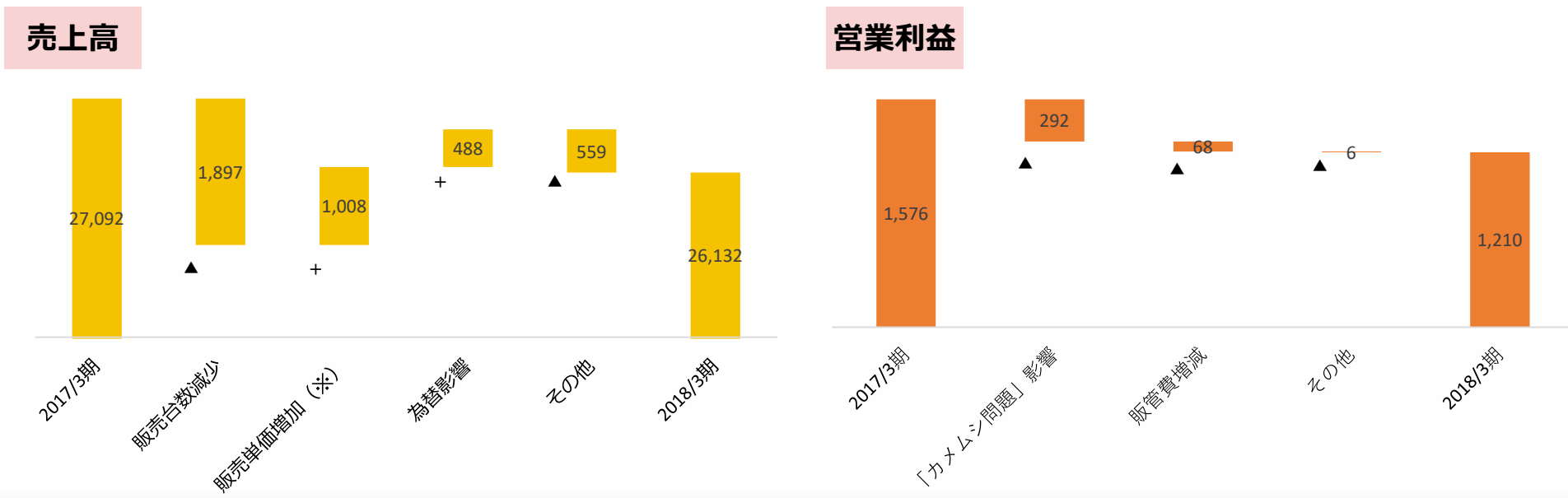
5 中期成長戦略：バリューチェーン延伸は順調。既存事業強化に注力、豪は市場調査から次の展開へ。

II. 2018/3期決算

1. 概要

- 前期（2017/3期）からの営業政策変更（廉価車販売先の取引見直し）により売上高は減少
- 本年2月以降の「カメムシ問題」（後記）により高利益率の物流・検査事業が減収となり、全体として減益

(単位：百万円)	2017/3期	2018/3期	前期比
売上高	27,092	26,132	▲3.5%
営業利益	1,576	1,210	▲23.2%
経常利益	1,944	1,330	▲31.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,367	909	▲33.5%



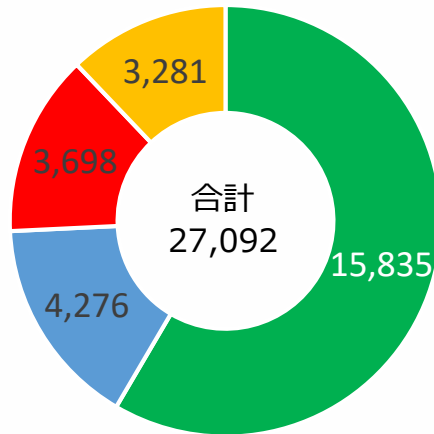
2. セグメント別実績 ① 概況

■ 貿易 ■ 物流 ■ サービス ■ 検査 ■ 当社

2017/3期

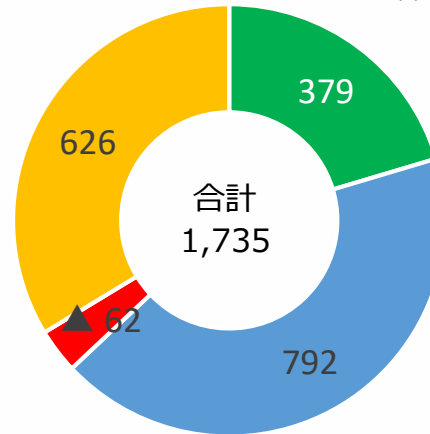
セグメント別連結売上高※1

単位：百万円



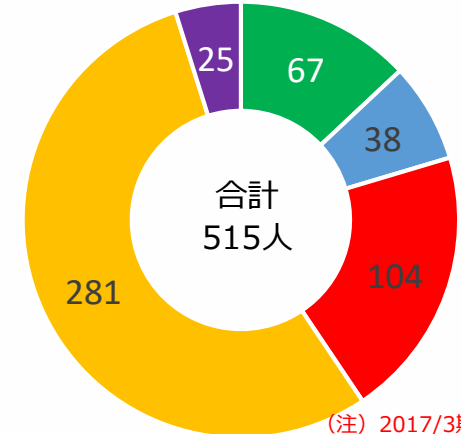
セグメント別連結営業利益※2

単位：百万円



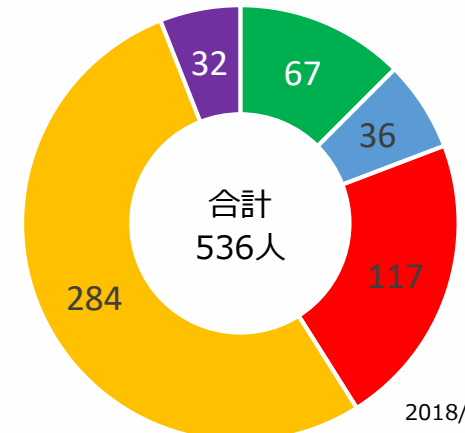
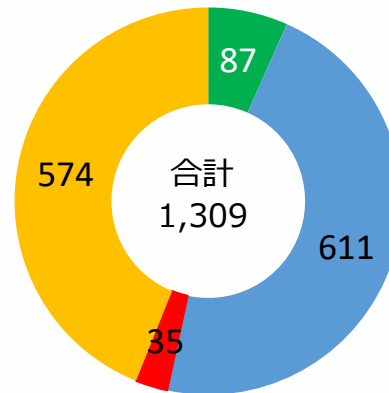
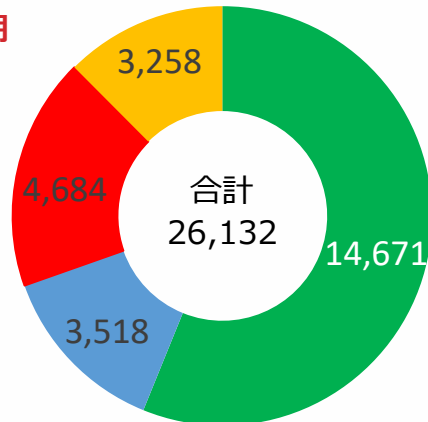
就業人員

(平均臨時雇用者数含む※3)



(注) 2017/3期の人員は
2017/10/31時点

2018/3期



2018/3/末時点

※1 連結調整後の外部顧客への売上高

※2 調整額等を加味していないセグメント利益

※3 当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向を含む

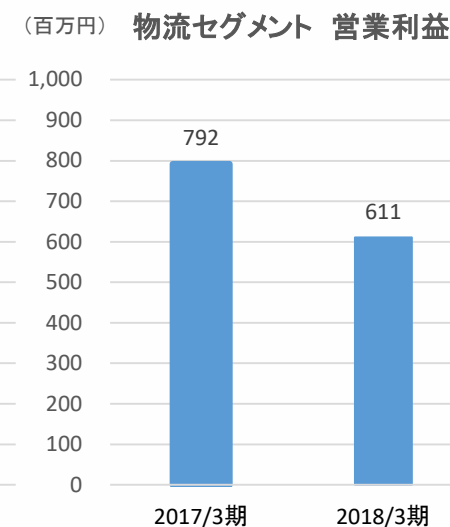
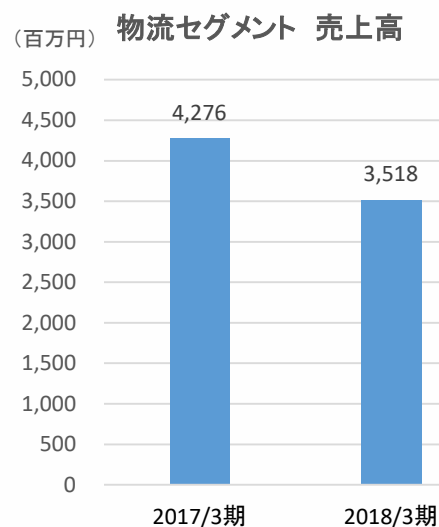
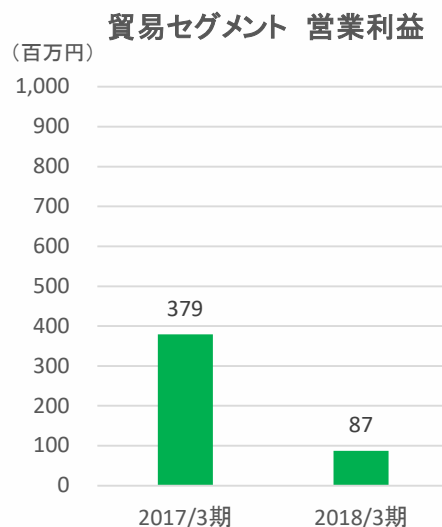
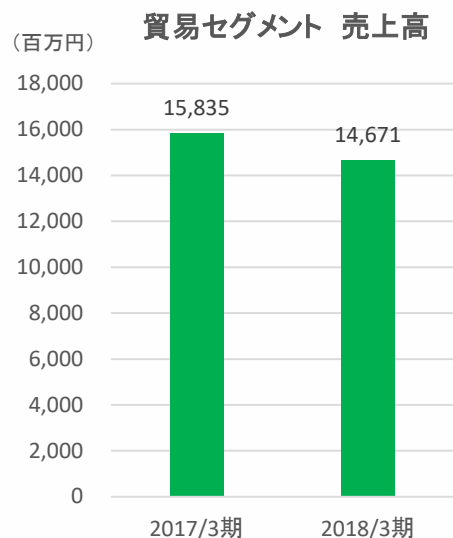
2. セグメント別実績 ② 貿易・物流

■ 貿易：販売先見直し途上により減収減益

(単位：百万円)	2017/3期	2018/3期	前期比
売上高	15,835	14,671	▲7.3%
営業利益	379	87	▲76.8%
連結調整前売上高①	17,333	16,934	▲2.3%
販売台数②	41,645	37,089	▲10.9%
成約台数	43,129	36,949	▲14.3%
①/②	¥ 416,208	¥ 456,577	9.7%

■ 物流：2・3月のカメムシ影響により減収減益

(単位：百万円)	2017/3期	2018/3期	前期比
売上高	4,276	3,518	▲17.7%
営業利益	792	611	▲22.8%
運送台数	38,450	32,352	▲17.0%



(注) 売上高は、連結調整後の外部顧客への売上高。
 営業利益は、調整額等を加味していないセグメント利益。
 以下、特に断らない限り本資料において同様。

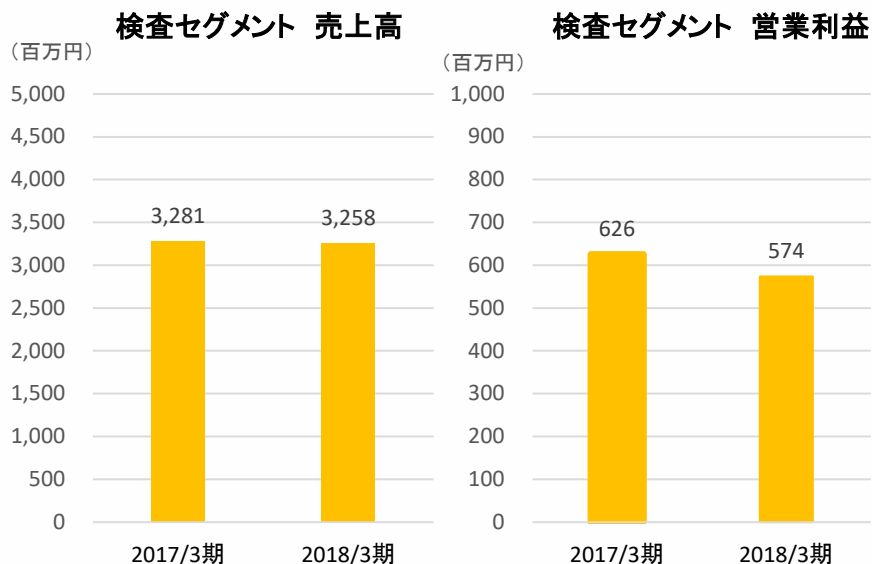
〔ご参考〕

NZD/JPY期中平均	76.81	79.24	3.2%
NZD/JPY期末時	78.45	76.79	▲2.1%

2. セグメント別実績 ③ 検査・サービス

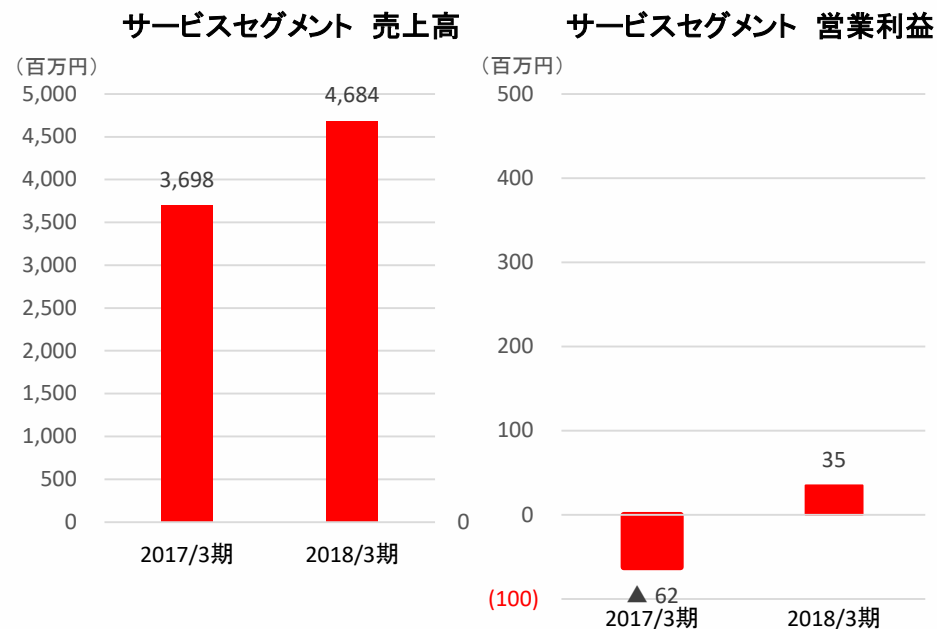
■ 検査：2・3月の「カメムシ問題」の影響により減収減益

(単位：百万円)	2017/3期	2018/3期	前期比
売上高	3,281	3,258	▲0.7%
営業利益	626	574	▲8.3%
検査台数	108,426	105,229	▲2.9%

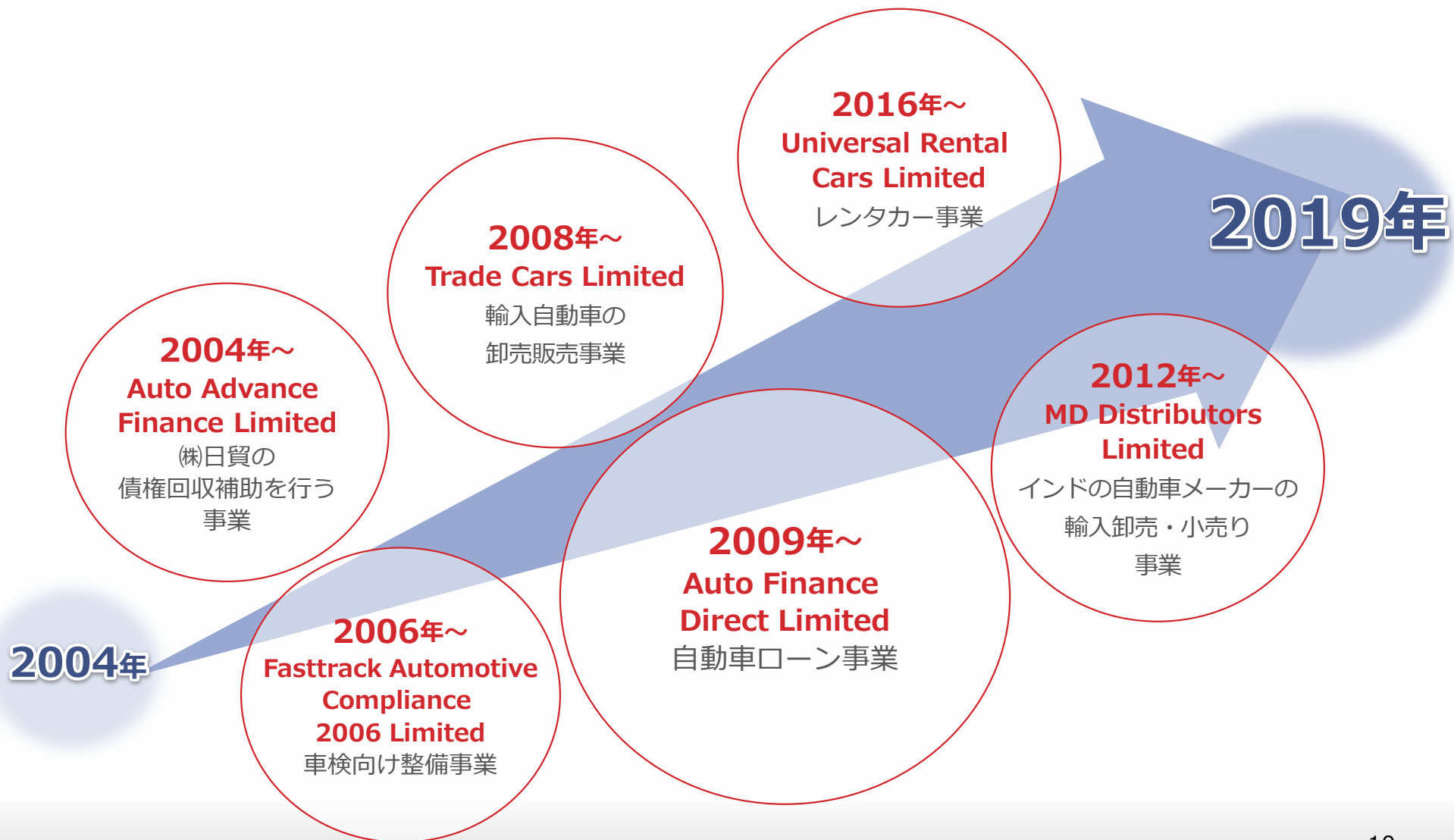


■ サービス：レンタカー、SmartBuyおよび自動車ローンの成長により黒転

(単位：百万円)	2017/3期	2018/3期	前期比
売上高	3,698	4,684	26.7%
営業利益	▲62	35	97

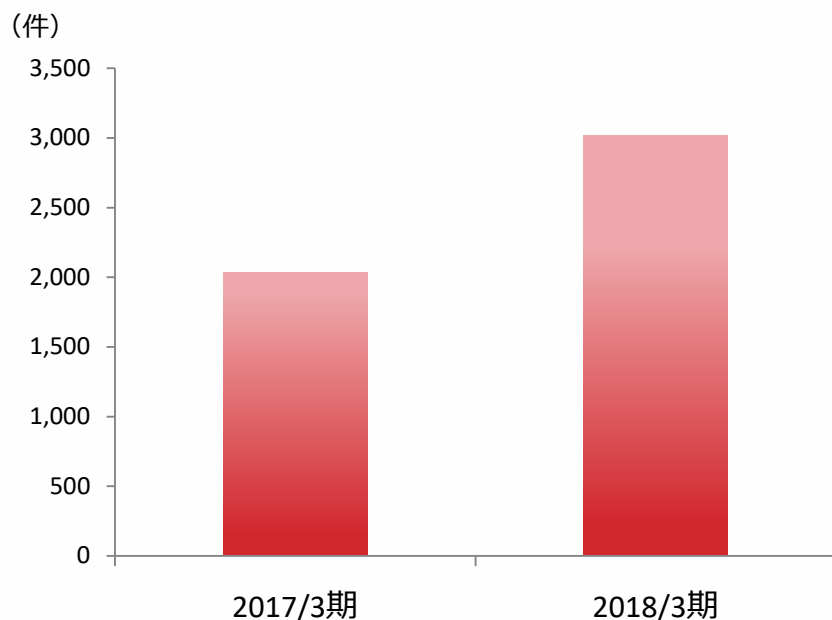


■ ノウハウや顧客基盤を活用し、新規事業を創出してきた実績

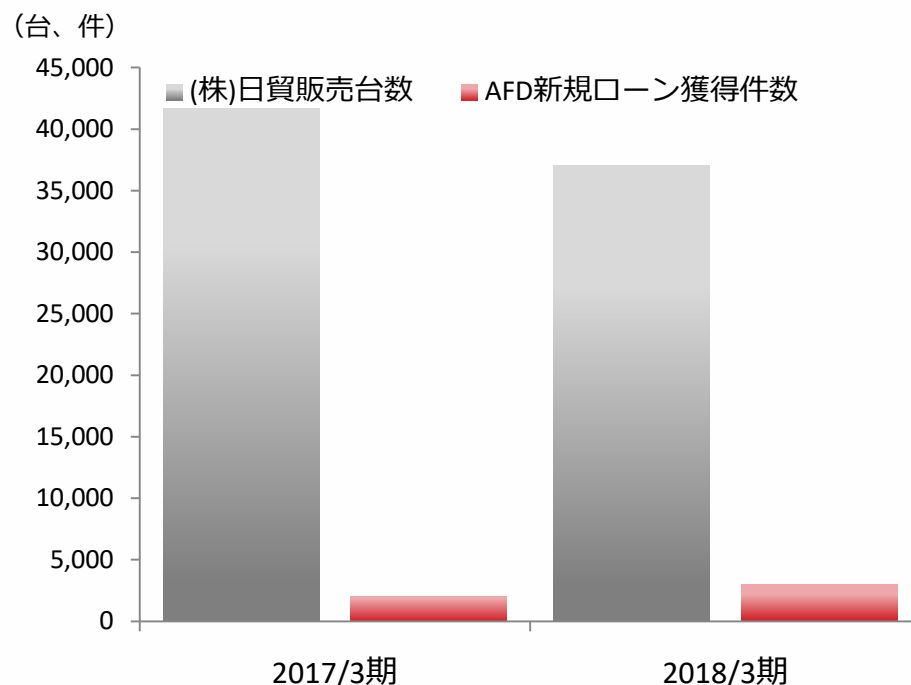


- Auto Finance Direct Limited (以下、AFD)の2018/3期の新規ローン獲得件数は2017/3期の約1.5倍
- (株)日貿の年間販売台数と比較すると、自動車ローンの拡大余地は十分

AFDの年間新規ローン獲得件数



年間販売台数と年間新規ローン獲得件数



自動車ローンの商品概要

- 6~48カ月の間で顧客に合わせた返済設計
- 金額も個人の返済能力に合わせて組み立て

3. 「カメムシ問題」 (その1)

1. 「カメムシ問題」とは？

2018年2月6日にNZのオークランドに入港した日本発の自動車運搬船において、カメムシ（害虫指定のクサギカメムシ）が発見され、同日以降車両の荷揚げが制限された。

これにより駆除、厳格な検査が求められ、自動車運搬船の入港スケジュールの大幅変更、車両の陸揚げ遅延、港のオペレーションの混乱など、検査、物流に混乱が生じ、当社グループの業務にも影響を及ぼした。

カメムシの車体もしくは船体侵入には季節性があり、主に冬季に見られる。現在では通常の検査態勢に戻っているが、今秋以降への対応として熱処理を主とする除去態勢を整備中。

2. 業績への影響

KPIs

	2018年 2・3月予算	2018年 2・3月実績	差額	予算対比
販売台数	6,851	6,908	57	0.8%
輸送台数	5,908	2,913	▲ 2,995	▲ 50.7%
検査台数	19,625	16,628	▲ 2,997	▲ 15.3%



営業利益
▲292百万円

3. 「カメムシ問題」 (その2)

NZ管轄省庁の勧告に従って追加的に実施した自動車運搬船内の駆除作業の様子



クサギカメムシ

4. 経営上の財務数値目標及び配当

1. 経営上の財務数値目標について

(1)ROE（自己資本当期利益率）

- ・当社経営上の財務指標としてROE（自己資本当期利益率）を設定
- ・目標値 10%以上（2018年3月期実績：10.3%）

(2)その他の財務数値

- ・当面は成長投資としての事業投資を勘案し、ROA（総資産当期利益率）等の指標は設定しない。

2. 配当について

(1)基本方針（2018年3月14日付 配当方針の決定に関するお知らせ ご参照）

- ・当面は連結配当性向30%程度を目安とする。
- ・中間配当および期末配当の年2回配当を基本とする。

(2)2018年3月期期末配当について

- ・1株につき26円00銭
- ・2017年12月の上場を勘案し、親会社株主に帰属する当期純利益の1/2をもとに配当額を決定。
 $26.00\text{円} \div (1\text{株あたり当期純利益}(178.58\text{円}) \times 1/2) = 29.1\%$

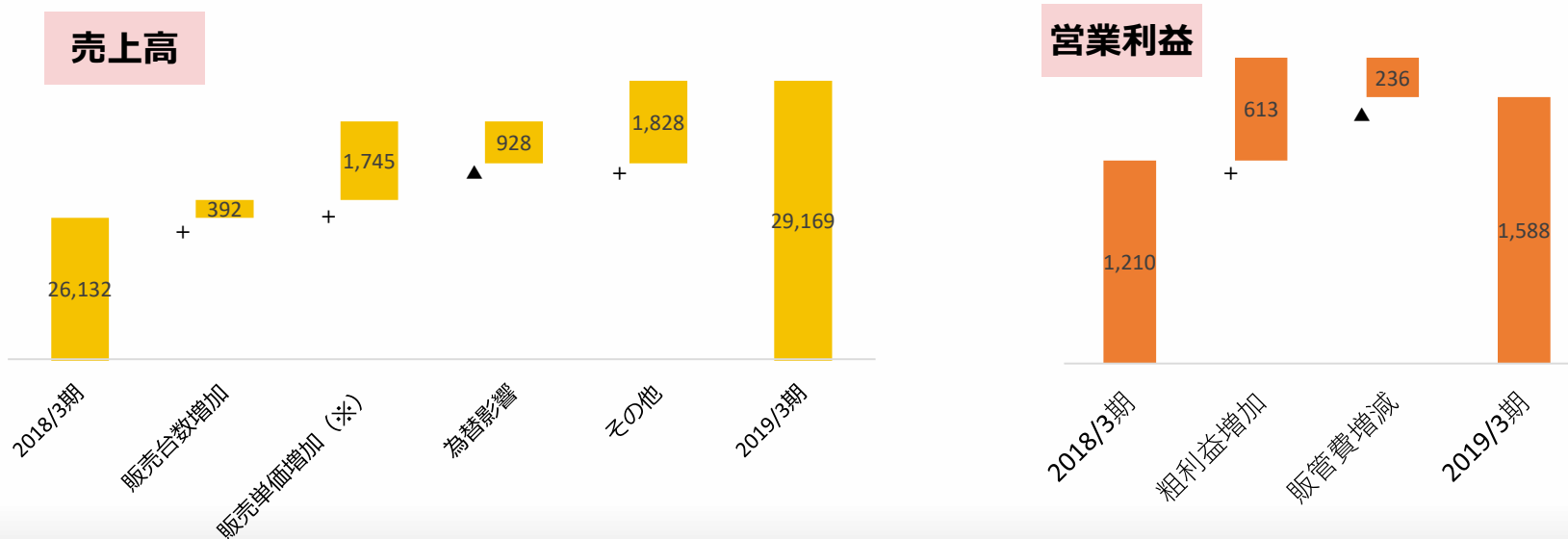
(3)2019年3月期についても年間の連結配当性向で30%程度（中間配当及び期末配当の合計）を予定

Ⅲ. 2019/3期見通し

1. 概要

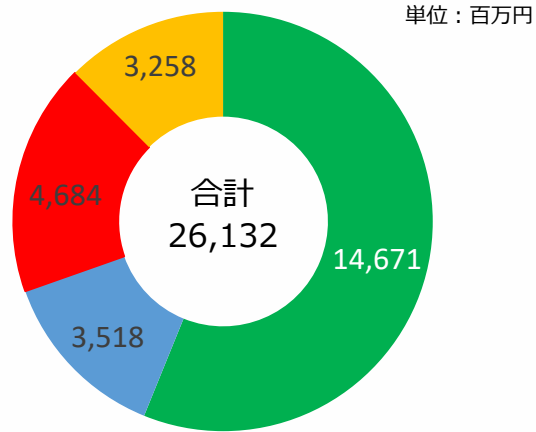
- 販売価格引上げ、サービス事業の拡大、「カメモシ問題」による期ずれにより、二桁増収
- 売上・粗利増が検査事業の投資増（人員増含む）や管理コスト増大を吸収し、増益を見込む

(単位：百万円)	2018/3期	2019/3期	前期比
売上高	26,132	29,169	11.6%
営業利益	1,210	1,588	31.2%
経常利益	1,330	1,610	21.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	909	1,028	13.1%

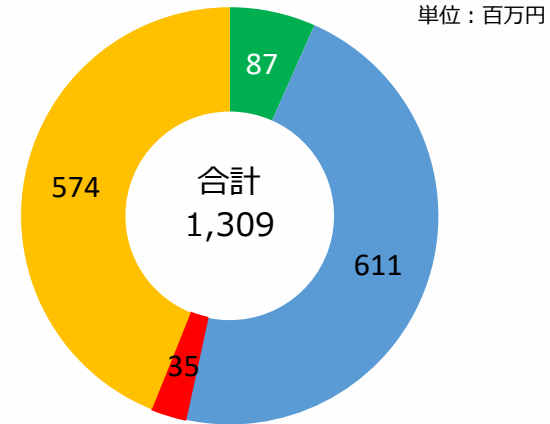


2. セグメント別計画 ① 概況

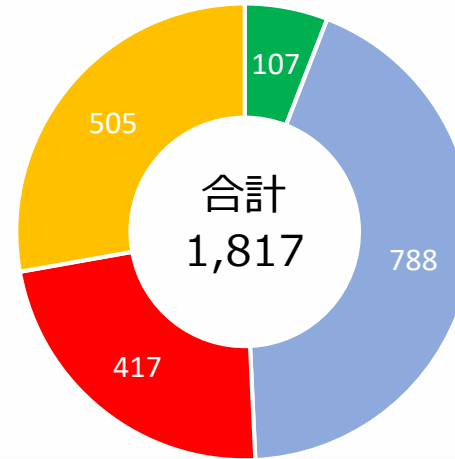
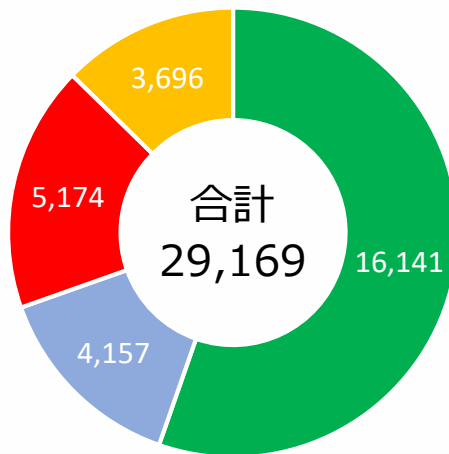
2018/3期
セグメント別連結売上高 ※1



セグメント別連結営業利益 ※2



2019/3期



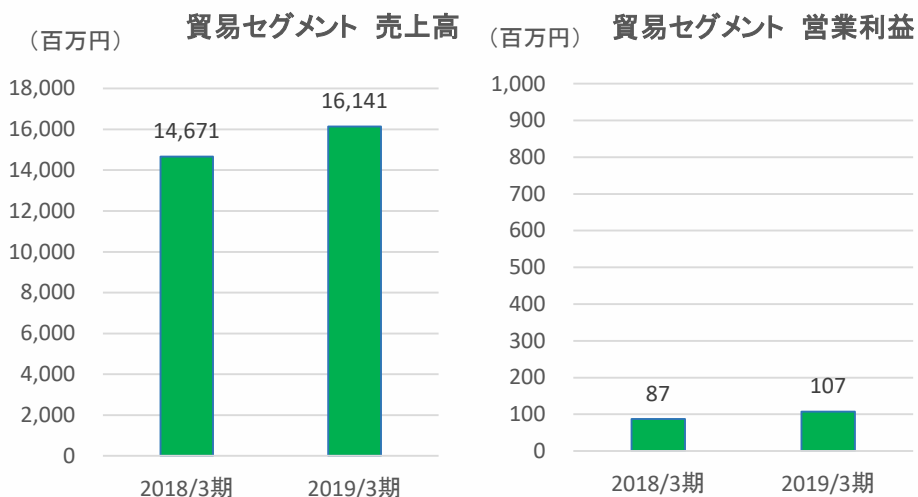
※1 連結調整後の外部顧客への売上高

※2 調整額等を加味していないセグメント利益

2. セグメント別計画 ② 貿易・物流

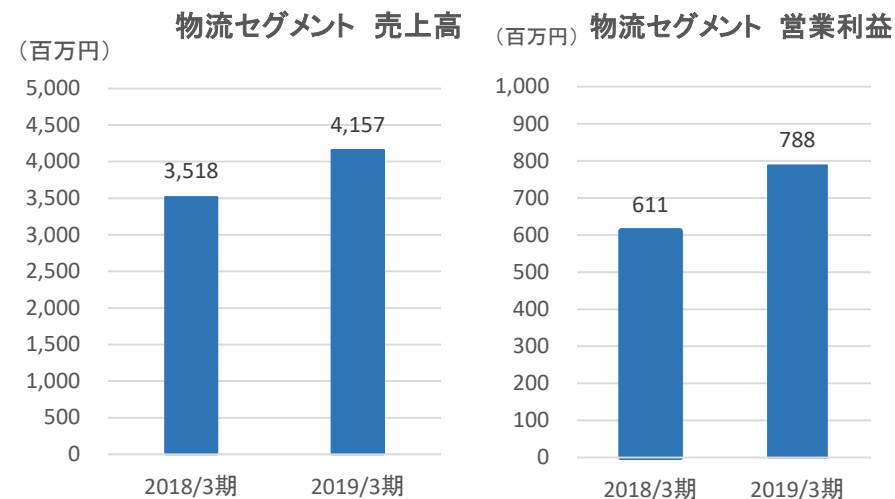
■ 貿易：販売単価引き上げによる回復

(単位：百万円)	2018年3月期	2019年3月期	前期比
売上高	14,671	16,141	10.0%
営業利益	87	107	23.0%
売上高（含む内部取引）①	16,934	18,145	7.2%
販売台数 ②	37,089	37,948	2.3%
成約台数	36,949	38,000	2.8%
販売単価 =①/②	¥ 456,577	¥ 478,154	4.7%



■ 物流：「カメムシ問題」に伴う期ずれ等による増収増益

(単位：百万円)	2018年3月期	2019年3月期	前期比
売上高	3,518	4,157	18.2%
営業利益	611	788	29.0%
運送台数	32,352	37,431	15.7%



(注) 売上高は、連結調整後の外部顧客への売上高。
営業利益は、調整額等を加味していないセグメント利益。

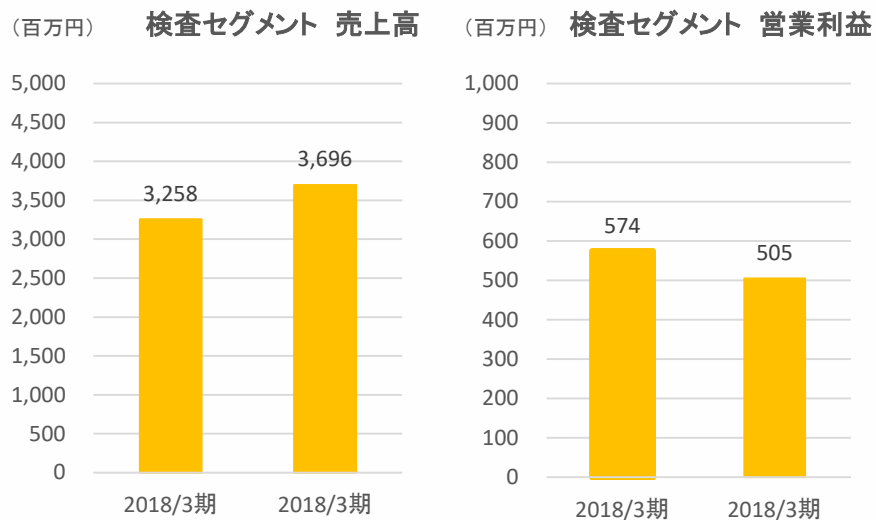
[ご参考]

NZD/JPY期中平均	79.24	75.00	▲ 5.4%
NZD/JPY期末時	76.79	75.00	▲ 2.3%

2. セグメント別計画 ③ 検査・サービス

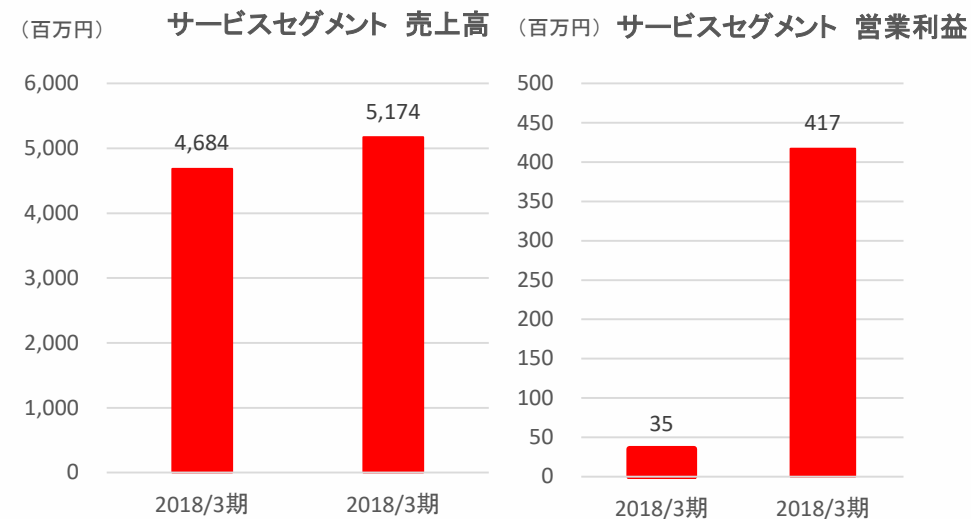
■ 検査：戦略投資による販管費増による減益

(単位：百万円)	2018年3月期	2019年3月期	前期比
売上高	3,258	3,696	13.4%
営業利益	574	505	▲ 12.0%
検査台数	105,229	110,930	5.4%



■ サービス：新事業の効率改善による利益成長

(単位：百万円)	2018年3月期	2019年3月期	前期比
売上高	4,684	5,174	10.5%
営業利益	35	417	1091.4%

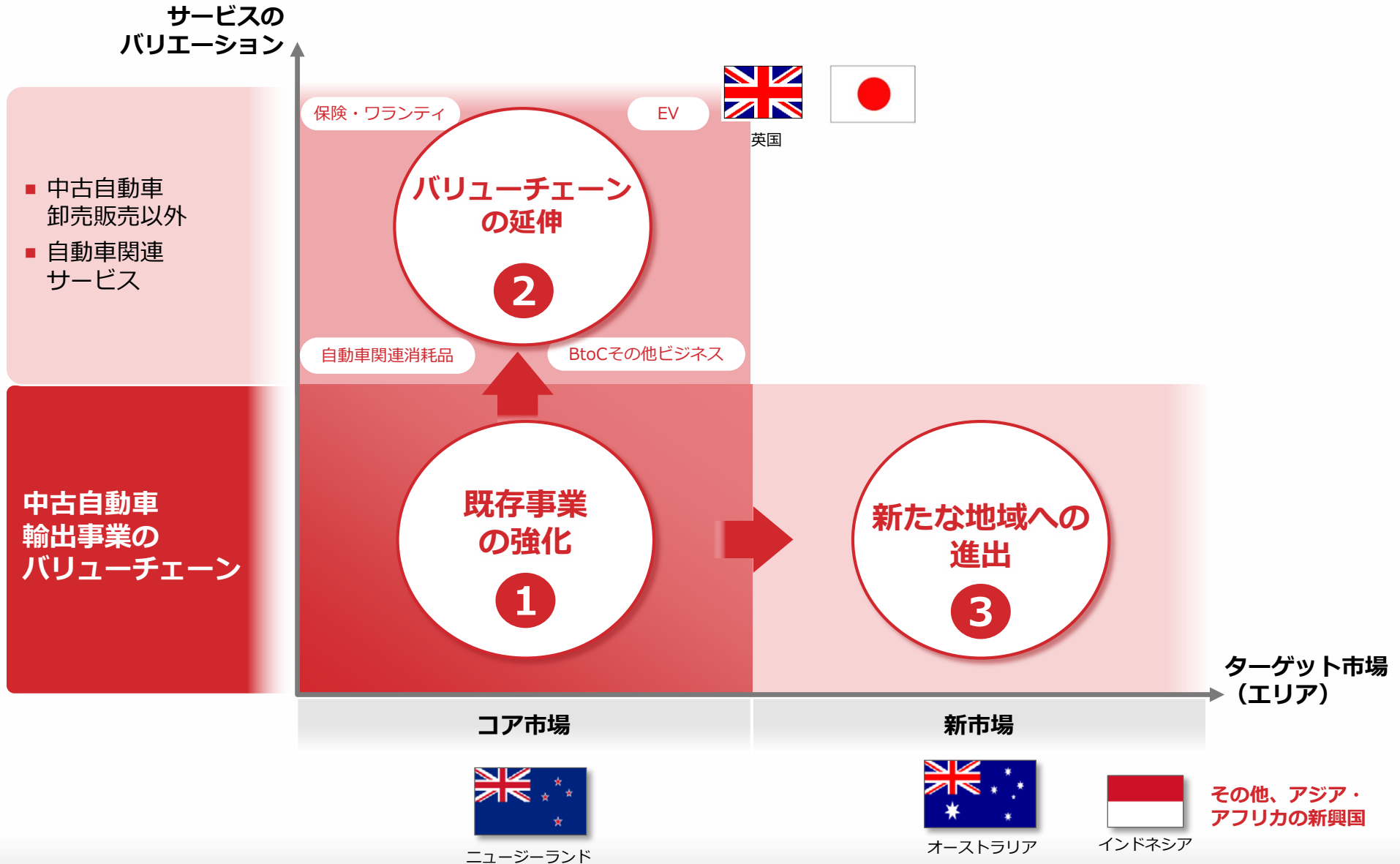


(注) 売上高は、連結調整後の外部顧客への売上高。営業利益は、調整額等を加味していないセグメント利益。

IV. 中期成長戦略

成長戦略の方向性

既存事業を起点としてサービスと市場を拡大



貿易事業

- 営業担当者の教育強化
- 顧客ネットワークの維持と新規顧客の獲得

物流事業

- 取引先の拡充
- 陸送事業の展開



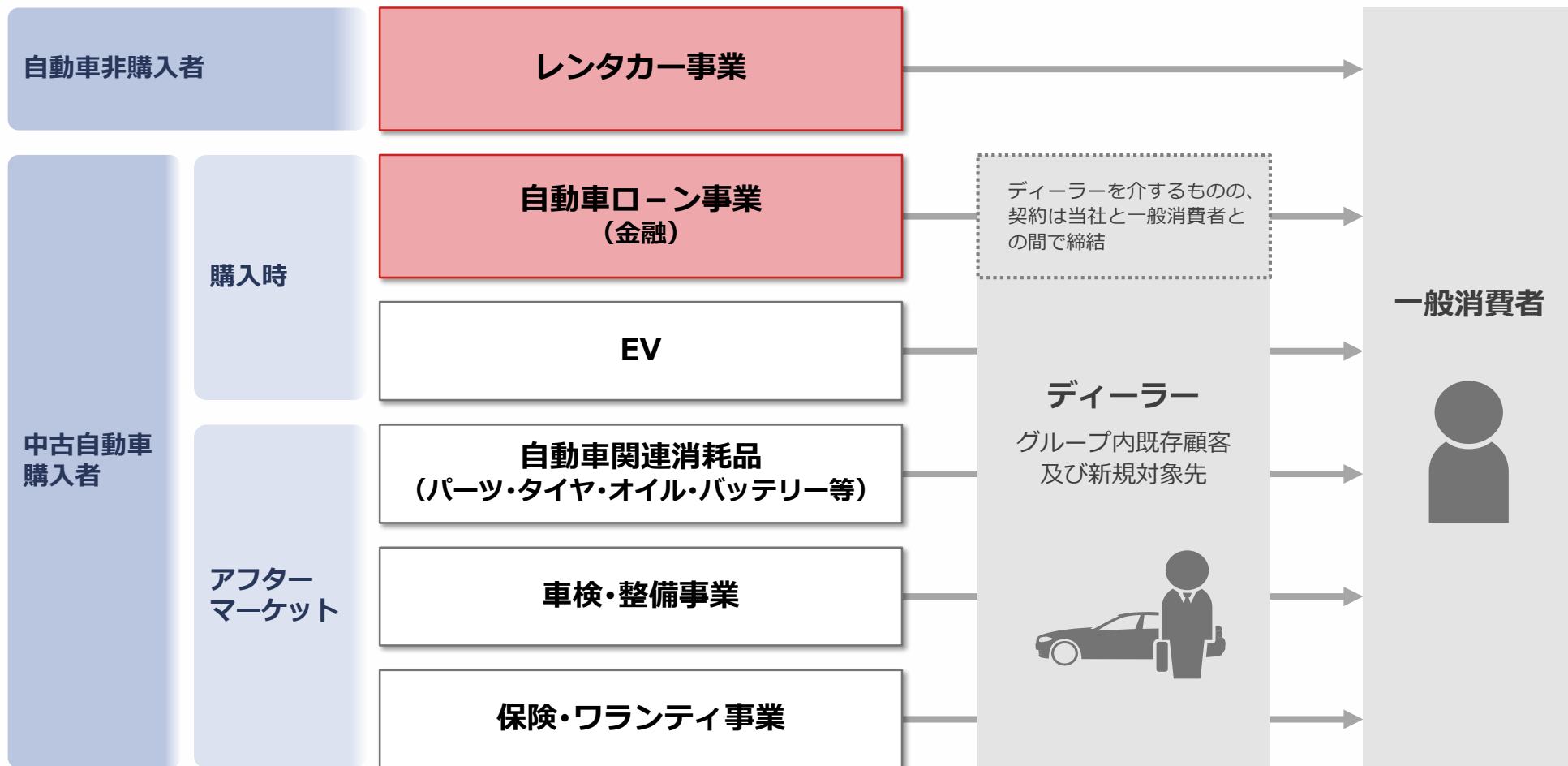
検査事業

- 大型トラック等、新車種対応施設等への設備投資

サービス事業

- B to C ビジネスの拡大に向けて一般消費者へのアプローチを継続

- ディーラー等を通じて中古自動車購入者や一般消費者に対し、購入時に限らず多様なサービスを提供。自動車ローン事業は収益化。レンタカー事業は今後、収益化を目指す。



■オーストラリアの成長性とポテンシャル

● 人口増加の傾向

2017年2,476万人から2023年には2,716万人に達する予測

● 日本車の優位性

原則として輸入・車両登録できるのは右ハンドル車のみ

新車輸入の約30%は日本車

日豪経済連携協定により中古車輸入に対する日本からの関税が今年4月よりゼロに
(中古自動車の輸入特別税の撤廃も2019年に検討)

● 自動車「純輸入国」

2017年末までに全ての製造メーカーは現地生産から撤退

● 30年ぶりに法制度の大幅改正を予定

自動車基準法Motor Vehicle Standards Act 1989は改正予定 (Road Vehicle Standards Bill 2018を現在協議中)

輸入時の専門業者による全車両検査の義務化を検討

中古自動車輸入の拡大は環境、安全等への懸念から依然慎重な姿勢

**ターゲット市場の動向を見極めつつ、
当社グループ既存事業で培った経験を生かし新たな機会創出を狙う**

当プレゼンテーション資料は、株式会社オプティマスグループ及びそのグループ会社の戦略・経営計画など、「将来に関する見通し」を含んでいます。

かかる将来に関する見通しは、現時点において入手可能な期待・見積り・予想に基づいており、その性質上、これらの期待・見積り・予想には、リスクや不確実性が内在しています。

従いまして、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果、財務内容などは、かかる将来に関する見通しについて明示的または黙示的に示される情報と大きく異なる結果となる可能性がありますことをご承知おきください。

また、当社は、かかる将来に関する見通しについて情報を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

プレゼンテーション資料は、有価証券の募集・売出、販売、勧誘を目的とするものではありません。投資・そのほかのご判断にあたり、当プレゼンテーション資料の内容に全面的に依拠することはお控えくださいますよう、お願い申し上げます。

